

流通とSC・私の視点

2012年9月22日

視点(1623)

概文：日中関係をクールな対応で乗り切ろう!!

(概文・日本再生物語編)

今、日中間で尖閣問題が大きな課題となっています。日本の政府の自国内の土地の国有化に対して、中国国民(?)及び中国政府は激しく反発しています。日本経済新聞の「春秋欄」や「大機小機欄」のコラムの言葉と内容を引用しながら、私の考えを述べさせていただきます。

中国は、日本の尖閣諸島の国有化に対し、激しい反対デモを行い、その中で「小日本」「もう戦争だ」「日本を占領せよ」「日本を降伏させろ」「東京にミサイルをぶち込め」等を叫び、同時に「投石し」「日の丸を焼き」「建物に放火し」「略奪し」さらに「労働者の反日ストライキ」「日本商品不買運動」「日本の出版物の規制」を行っています。この屈辱的な言葉及び野蛮なかつ理不尽な行動は国際的には世界第2位の経済国家及び国連安保の常任理事国の国家のレベルのものではありません。私は、後進国がある程度の国になるまでは知的財産権や生活慣習行動及び政治的行動の中に非文化的なものがあってもある程度しかたないと思っています。日本も、アメリカの商品への違法なモノ真似や60年安保問題の中でのアメリカに対する野蛮な政治行動を行い、今から見れば国家として恥ずかしい思いがすることを過去には行いました。

私は、未開発国→発展途上国→新興国→先進国へと国家が成長する中で、非文化的行動をとることがやむを得ない時期(非文化的行動を取るからこそ後進国なのだから…)と、もう非文化的行動をとることから脱皮する時代の「境目」を「オリンピックの開催と万博の開催」であると考えています。

日本は1964年に東京オリンピックの開催、1970年に大阪万博の開催を行い、日本はそれまでの非文化的政治行動、経済行動、生活慣習の行動から脱皮し、今や世界でも上位に位置づけられる文化人(紳士・淑女の行動を取る人)に進化しました。

アジアでは、日本に続いて韓国、さらに中国が2008年に北京オリンピック、2009年に上海万博が開催されました。やがて、アジアで、インド、インドネシア、マレーシア等が発展途上国から新興国になるとオリンピック大会や万博大会が行われ、先進国への道を歩むこととなります。

尖閣問題で中国が激しい反日運動の中で、日本国民は、「見苦しい騒ぎはせず冷静な行動」を「悔しい思い」と「屈辱的な気持ち」を持ちつつ耐えました。中国から見ると「弱虫」「なさけない国民」「小国民」と侮るかもしれませんが、日本人としてまた文化人として立派な行動でした。

しかし、単に冷静な行動だけではますます日本は中国の勢いに押され窮地に陥ります。ここは、日本は「クールな対応」(ここでのクールとはクールジャパンの「カッコいい」という意味)が必要です。日本と中国は経済的には切っても切れない「相互繁栄経済体制」(どちらも経済的に必要である関係で、互いに協力して経済を発展させればともに繁栄する関係)であることは認識しています。

国家間の外交(おつきあい)は、左手に“こぶし(軍事力)」、右手で“握手(外交力)」、口で“平和(共存共栄)”と言われています。

すなわち、日中間の経済的共存共栄体制を、両国の国家間の基軸を確認し、日本は「堅固な防衛体制の維持及び軍事力の再構築」そして「強力かつ創造的自主独立外交を展開」し、「口」と「左手」と「右手」を手段に、人類としての英知を創出しなければなりません。それには「志の高い政治家」「創造的経済人」「文化的な国民」の三位一体化した国家建設が必要です。日本国憲法も世界に向けて「平和国家宣言」をした上で「憲法9条の改正」をすべきです。“スイス”のような国際的に中立国というイメージと同じようなレベルで平和を目指す国“日本”の国際的イメージを高めるべきです。

これが、クールジャパンの国家像と中国との互いを尊重し互いに一目置きあう徳と誇りのある“粋”ないき外交です。

(株)ダイナミックマーケティング社⁶
代表 六 軍 秀 之